

# 白藤プロジェクト

## 石破農水大臣と食育・農業を熱く語り合う

幻の酒「白藤郷」の新酒をモンペ姿で贈呈！予定を大幅にオーバーし40分！

# 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)

「米の品種で知っているものをあげて」と消費者に質問したら、「コシヒカリ」「あきたこまち」「ぎらら397」と答えるのではないでしようか。「ミルククイーン」「ササニシキ」をあげたならば、なかなか米にこだわっている人かもしれません。

いづれの米も、戦後品種改良された換金性に優れたメジャーな品種です。しかし、日本には従来の名もつかない「地酒」ならぬ「地米」が各地にありました。気候風土にあった地米も米作の画一化、品質の規格化の波にさらわれ姿を消していました。

**白藤復活の意味**  
白藤は江戸末期から昭和初期にかけて、酒用・米飯用として新潟で広く栽培されていた、ずんぐりむつくりのコロコロした粒の小さな品種です。しかし酒米の高度精米化による大粒化、背丈が伸

びるといふ栽培のしづらさなどから、いつしか絶滅してしまいました。

「鳥またぎ米」といわれた新潟平野が泥沼の「潟」の時代に、農家から選ばれ生き延びた米です。言い換えるならば厳しい栽培環境の中で在野の農家が育てた大切な地域資源が白藤です。この時代は、酒用・米飯用の区別がなかったように、農家は生産するだけ、消費者は食べるだけの分業社会ではなく、渾然一体としていたように思います。

白藤を復活するに当り生産から加工、消費に至るまでのプロセスを、学生・酒蔵・生産者が共に歩むことを目指しました。生産は生産者だけ、加工(酒蔵)は加工だけ、消費は



消費者だけの分断をつなぎ合わせ現代風に進化させて商品開発をするのが白藤プロジェクトです。

限界集落の話の切り出され：石破大臣に今年2月に仕込んだ白藤郷の新酒を贈呈することが目的だったので、5分程度の面談の予定でした。初めにマスコミ等を含めた写真撮りがあり、大臣室の大きいテーブルに着席しての面談が開始しました。大臣から学生に限界集落の話、米の消費に繋がる方法は無いのかなど矢継ぎ早に質問をされました。

白藤プロジェクトでは、中越大地震の被災地の山口町での台所交流、中越



はんぶん米の表示問題に関心を

沖地震の募金活動などを行っていたので、今年卒業し、東京都の小学校で栄養士として食育の道を歩み始めた松本恭子さんが代表して意見を述べました。

大臣は「選択減反制度」についても言及されました。「自らの経営判断で生産調整するのか、しないのかを選択できない制度はおかしい」と語気を強められました。日本農業に経営者が育つ土壌がなく国等からのお仕着せされた生産調整ではなく、自らの経営の意思が欠落した制度の改革こそが農業再生への第一歩と確信されているように感じました。



今回の訪問は、首相官邸の「立ち上がる農山漁村」に白藤プロジェクトとはんぶん米がダブル選定された式典の交流式で、大臣に白藤郷を試飲してもらったことから始まりました。

大臣に生産者の阿部信行さんがはんぶん米を渡し、中越大地震からの体験で開発したことを説明。しかし、健康増進法などの関係法令の規制のために、成分や説明などの表示が一切できないため、食事制限者に伝わらず返って不利益になっていることを説明。

大臣から表示の問題に1枚にまとめてレポートするように指示を受けました。

《裏面に続く》

《続き》

農水省では機能性農産物を多額の税金を投入して育種・開発して育種・開発していき、表示ができれば流通にのることにはありません。有益な国の宝がお蔵入りして

又、食品以外にも健康関連の商品が過度な規制を受けて市場が縮小するばかりで産業育成にもなりません。ゴールデンウィーク前には、経済産業省関東経済産業局長・塚本修様らが、はんぶん米の表示問題について当社に調査で来社されました。新たに消費者庁ができる中で、規制の強化だけでなく消費者が選択できる表示・伝達方法、農工商連携の産業の育成の観点から、省庁を超えて石破大臣に関わっていただければと願っています。

今回の訪問は以下に掲載されています



石破茂オフィシャルブログ

日本の農業を立て直す

http://ishiba-shigeru.cocolog-nifty.com/blog/2009/06post-90e8.html

6月1日のブログに掲載していただきました。

健康ビジネス連峰

6/9UP

http://www.kenko-biz.jp/oshirase101/

お知らせ・新規事業欄に掲載されています



控え室で大臣との対面を待つ、緊張の面持ちの参加者。SP、秘書官たちはモンペに笠姿の学生にビックリ!

## マイコトキシン検査協会をご存知ですか?

東京家政大学教授で、医師・医学博士の中村信也先生は、厚労省出身同省から依頼を受けて昨年、(財)マイコトキシン検査協会理事長を兼職しています。マイコトキシンは昨年世間を騒がせた輸入米に付着した「カビ」。同検査協会では厚労省の登録検査機関としてカビを始め残留農薬検査などを命令検査・自主検査いずれも行います。検査希望の方は(有)エコ・ライス新潟にお申し出ください。特価での検査を検討して頂けるのとことです。



マイコトキシン検査協会  
http://www.mycotoxin.or.jp/

21年産より

## フレコンパックでの出荷対応施設導入します!

「30kg袋が重くてかなわん」「秋作業が間に合わない」との声が寄せられる中、フレコン対応施設を整えました。併せて、フレコンパックの取扱いも開始します。



フレコンパック (ウェイ)	10枚梱包
(1,020kg)	1,700円/枚 (税別)
30kg紙検査袋	100枚梱包
	75円/枚 (税別)

6月26日(金)までにお申込ください

詳しくは同封の申込書をご覧ください。

## 県内健康ビジネス企業のトップが参加

新潟県健康ビジネス連峰を推進する産業労働観光部の呼びかけで、秋の「うおぬま会議」に向けて、健康ビジネスを志向する民間の異業種を集めて、「健康ビジネス商工会(事務局(案))」を設立して、県が後押しするという構想です。会議には(株)ブルボン吉田社長を始め、越後製菓(株)、亀田製菓(株)、(株)雪国(株)大庄各社、それぞれ苦い経験があり、消費者利益の観点から、消費者の自己紹介で、(有)エコ・ライス新潟阿部社長は、「はんぶん米が東京都に納入が決まった後、厚労省からパッケージの表示について指摘があり困った。」と実例を挙げて説明しました。健康ビジネスの最大の問題は「表示」につきま



からも改革が必要で、官民学あげて取り組むことが確認されました。

## 「新潟県の健康ビジネスを考える会」開催